

令和5年度実施分

施策2-3-2	高齢者が安心して元気で暮らせる環境を整えます
評価	<p>C やや遅れている</p> <hr/> <p>高齢者が心身ともに健康に生活を送るための活動を支援しているが、人口減少による老人クラブ活動への参加者数、団体数の減少が見られる。逆に活動に制限がなく手軽に活動できるふれあいサロンへの参加が多く見られる。人口減少と高齢化が今後さらに進むことは明らかで、さらに独居老人も増えると見込まれる。社会との接点が減ることで、介護及び認知症のリスクも懸念される。介護予防活動を担う指導者や、介護職・認知症への理解を得るために開催している若年層向けの講演や映画会における参加者からの声なども拾い上げるとともに、参加者や指導者からの要望・意見を事業にフィードバックするなどし、より一層、活動への支援の充実が必要と考える。</p>

当局の評価	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	概ね順調	概ね順調	概ね順調

◇施策の進捗評価の目安(4段階)

A 順調	計画どおり進んでいる
B 概ね順調	概ね計画どおり進んでいる
C やや遅れている	計画より遅れている
D 遅れている	明らかに計画から遅れている

<基本事業の評価>

基本事業	方向性	委員会の評価
高齢者のいきがいづくり	改善のうえ継続	老人クラブ数や活動は高齢化に伴い減少しているものの、手軽に参加できる「ふれあいサロン」の活動は行われている。補助金等の支援がない中で活動しているふれあいサロンへの支援を講じていくことも検討する時期ではないか。併せてシルバー人材センターの活動に対し物価高騰も考慮した支援を継続していく必要がある。
認知症施策の推進	改善のうえ継続	サポーター養成講座や社会との接点でもある「認知症カフェ」の継続実施は必須である。認知症の早期発見・診断に繋げるためにも、認知症に対する見方や向き合い方について町民へさらに周知する必要がある。
介護福祉サービスの充実	現状のまま継続	介護サービス事業実施は目標を達成しているが、介護人材確保が難しい状況である。人材確保は介護に限らず全国的な問題であり、解決するのは困難である。一方で若年層に介護職に対する魅力発信事業を継続して行い介護職への理解を深めていることから、当面は現状通り事業を実施していく必要がある。
在宅高齢者支援体制の整備	改善のうえ継続	高齢者等買物弱者支援事業は延べ利用人数は減少しているが、販売額は前年と同程度となっている。人口減を起因とする利用者数の減少が今後続いていく中で、利用者のニーズを把握し寄り添っていくことが大事である。高齢者が社会と繋がりを持てる事業にしていけるためにも商店街との連携も含め利用しやすい事業にすべきである。
介護予防の推進	現状のまま継続	シルバーリハビリ体操は参加者が増えているが、指導者の固定化など派遣調整が難しくなっている。指導者の養成や活動への支援は今後も必要であり、指導者数増加に向け既指導者からの聞き取りや活動しやすい環境づくりも必須である。

◇基本事業の方向性(4段階)

- | | | |
|---------|---|--------------------------------------|
| 拡充 | : | 主に事業の予算規模や事業の対象を拡充することが望ましいもの |
| 現状のまま継続 | : | 事業を現状どおり進めることが望ましいもの |
| 改善のうえ継続 | : | 事業の対象や実施手法等を改善して進めることが望ましいもの |
| 見直し | : | 事業の規模縮小又は休止・廃止を含め実施手法等を検討することが望ましいもの |